

31.07.2014

化学工学会エネルギー一部会炭素系資源利用分科会

第1回炭素系資源の利用に関する勉強会

化学工学会エネルギー一部会炭素系資源利用分科会では、炭素系資源の利用に関する勉強会を下記の要領で開催します。この勉強会では、聴講者を交えたフリーな討論を通して、研究のニーズに関する理解を深め、今後の研究に活かすことを目的としています。そのため、石炭を中心とする炭素系資源の利用技術のレビューと課題および期待される技術等についての講演をしていただく予定です。奮ってのご参加をお待ちしています。

日時： 2014年9月16(火) 14:00~18:00
場所： 九州大学筑紫キャンパス総合研究棟 C-CUBE 3階 301 講義室
(最寄り駅 JR 鹿児島本線大野城駅)

主催： <http://www.kyushu-u.ac.jp/access/map/chikushi/chikushi.html>
化学工学会 エネルギー一部会 炭素系資源利用分科会

プログラム：

14:00~14:50 (司会 則永 行庸)
中川 浩行 (京都大学環境科学センター)
「世界及び日本における石炭の利用状況と今後の展望」

石炭利用は、石油および天然ガスの利用と密接に関わっています。IEA や BP の統計データをもとに化石資源が世界および日本でどのように使用されているかを紹介し、それらの賦存状況等を考慮して、今後の化石資源利用の展望と期待される石炭利用技術等についての私見を述べたいと思います。

14:50~15:30 (司会 則永 行庸)
橋本 望 (電力中央研究所)
「発電プラントを対象とした微粉炭燃焼技術開発の進捗状況と今後の課題」

他の化石燃料に比べ、単位熱量当たりの価格が低く価格の変動も少ない石炭は、今後も非常に重要な発電用燃料として位置付けられています。本講演では、電中研における微粉炭燃焼技術開発の進捗状況を紹介しながら、今後求められていくと考えられる技術開発の動向について考察します。

15:50~16:30 (司会 宮地 健)
工藤 真二 (九州大学先導物質化学研究所)
「イオン液体を使ったセルロースの触媒的熱分解とその展開」

熱分解過程におけるセルロースの構造変化を制御して特定の化学物質を得ることを目的に、熱的に安定かつ触媒能を有するイオン液体を利用することを検討した。ある種のイオン液体を混合してセルロースを熱分解すると高付加価値化合物であるレボグルコセノンが選択的に生成することを見出し、さらにイオン液体の特徴を活かした新たな触媒や反応系の開発を試みた。

16:30~17:20 (司会 中川 浩行)
加藤 健次 (新日鉄住金エンジニアリング)
「石炭利用技術の進歩と課題」

石炭資源はエネルギーおよび製鉄用の原料として、非常に重要な役割を果たしています。本講演では、石炭化学工業および石炭利用技術発展の歴史を振り返りながら、わが国における石炭使用技術を紹介します。これまでに開発された石炭資源の多様化への対応技術を参考にしながら、今後の技術開発の動向を考察します。

17:20~18:00 総合討論

18:30 ~ 技術懇談会 (会費 5000 円程度 博多駅付近を予定)

参加費： 化学工学会エネルギー部会員 (2,000 円)，化学工学会エネルギー部会賛助会員企業 (2,000 円)，化学工学会会員 (3,000 円)，非会員 (4,000 円)，学生 (2,000 円) (当日会場でお支払いください)

参加希望の方は 2014 年 9 月 12 (金) までに、所属・氏名・懇談会参加の有無をご連絡ください。

連絡先： 則永行庸 九州大学先導物質化学研究所 email: norinaga@cm.kyushu-u.ac.jp